

京都市立養正小学校 学校ニュース 学校評価 平成30年3月19日

校長 杉森 德行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp

学校教育目標 「子どもの良さを最大限に伸ばす養正教育の推進」

学校評価の結果について

1月に、全校児童（低学年〈1, 2年〉, 高学年〈3, 4, 5, 6年〉に分類）、保護者、教職員に学校評価のアンケートをしました。児童のアンケートは、学校での学習や約束のこと、生活習慣のことなど25項目、保護者、教職員には、子どものこと、学校のこと25項目について質問しました。アンケート結果を基に考察し、これまでの成果と課題についてお知らせします。

それぞれの項目について、重要度、実現度を回答してもらいました。（低学年児童は、実現度のみ）以下、グラフ等では、それぞれの質問に対する選択肢を次のとおりに示しています。

重要度：A重要である Bやや重要である Cあまり重要でない D重要でない

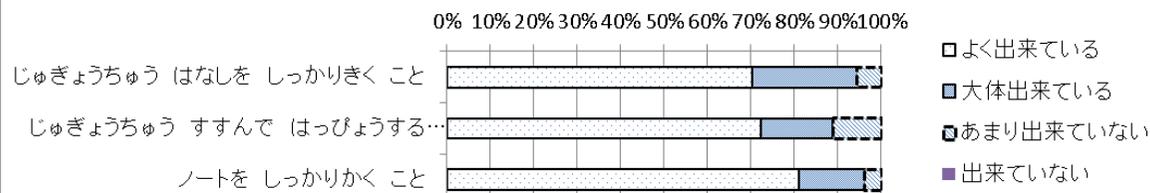
実現度：Aよく出来ている B 大体出来ている Cあまり出来ていない D出来ていない Eわからない

児童はA～Dのみ

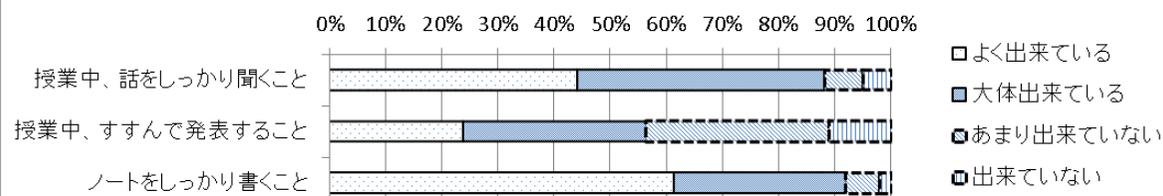
後期の学校評価のアンケートは、前期のものと同じ内容になっていますので、後期の内容を前期と比較しながら考察しました。また、今回は学校運営協議会で指摘していただいたように、一人一人を大切にするため、「あまり出来ていない・出来ていない」と答えている点について焦点を当て課題を明らかにしていきたいと思えます。

学習面について

低学年 後期 実現度

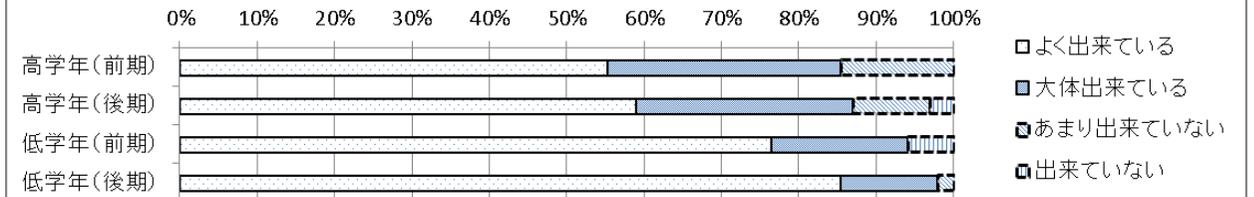


高学年 後期 実現度



左記のグラフは、学習についての項目を比較したグラフです。本校の児童は、発表に対して苦手意識をもっている子が多いという傾向が明らかになっています。低学年と高学年を比較すると、低学年の間は発表したり人前で話したりすることへの意欲が大きいのですが、学年が進むにつれ恥ずかしい・失敗したくないという気持ちが強くなり自分の意見を自分の言葉で話すことをためらっているようです。相手に自分の伝えたいことを分かりやすく順序立てて話すことは、これからの情報化社会に生きる子どもたちには必要不可欠なことです。学校においては、低学年から中学年、中学年から高学年へと進む際に、系統立てた取組の実践が必要であると思われます。

自学ノート(自学自習)に続けて取り組むこと

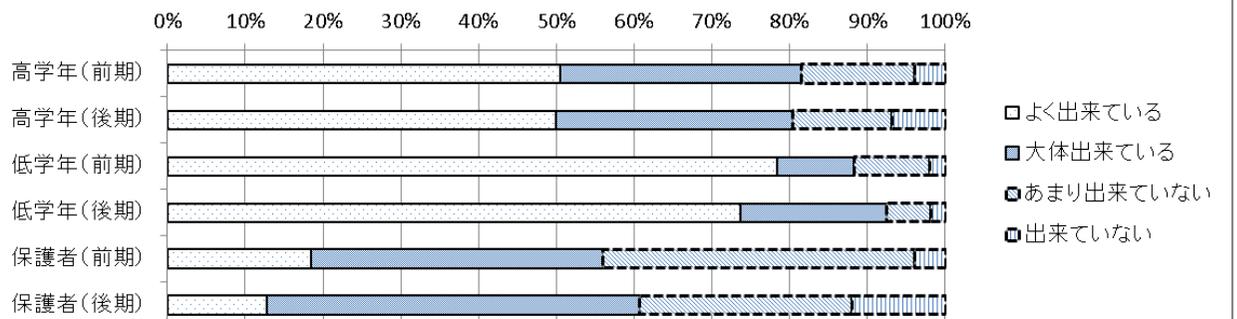


毎日の宿題をきちんと提出することは、今の学習の内容を振り返ることにもなりますし、家庭で学習する習慣をつけるためにも大切です。さらに、本校では1年生から与えられた課題だけではなく、自らが自分の課題に向き合ったり、興味をもっていることや疑問に思っていることを追究したりするために『自学ノート』に取り組んでいます。その『自学ノート』の取組についての項目で、あまり出来ていない・出来ていないというポイントが少し減っています。これは自らが選んで学習内容を決めることに慣れ、『自学ノート』への意欲が高まっていることを表していると考えられます。その陰には、家庭での声かけや内容へのヒントなど、保護者の方々のお力添えがあつてのことだと思います。

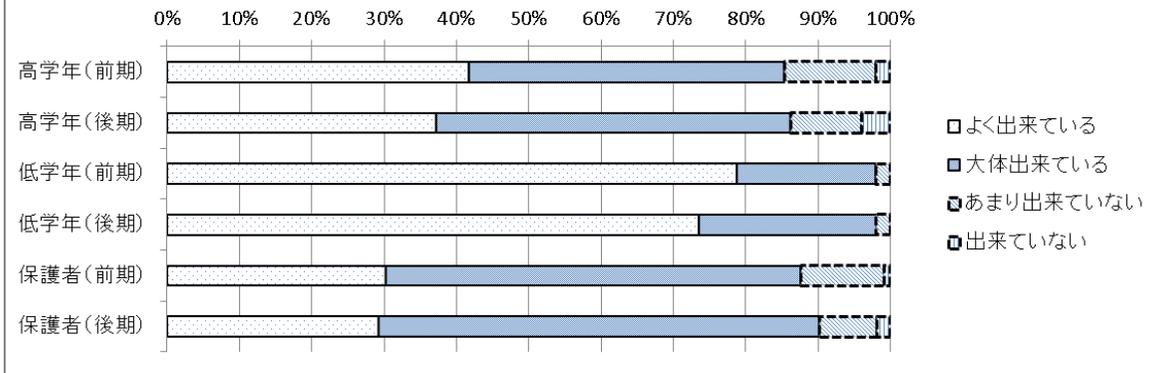
規範意識について

次のグラフは、「テレビやゲーム、スマートフォンの約束を守ること」についての実現度のグラフです。前期同様、大人と子どもに大きな意識のずれがありますが、低学年と保護者の回答では、あまり出来ていない・出来ていないと答えているポイントが減っています。1月の懇談会でも情報モラルについてお話させていただきましたが、保護者の方々に『情報』の怖さについて浸透してきたのではないかと想像します。

テレビやゲーム・スマートホンの約束を守ること



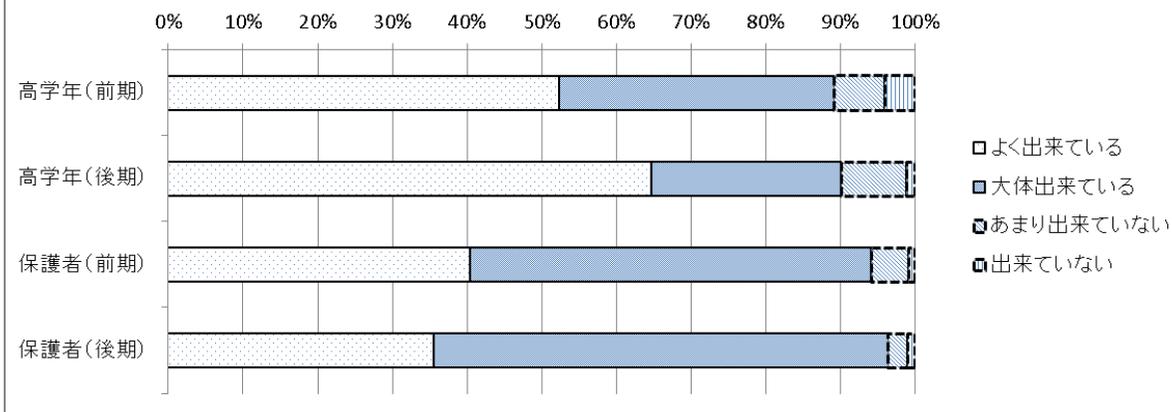
学校や学級のルールを守ること



また、「学校や学級のルールを守ること」の項目でも、若干ながら「あまり出来ていない・出来ていない」の回答が減っています。ルールや約束を守るとは、相手を大切にすることであり、それは自分自身を大切にすることです。本校では、毎月こここの日を中心に、人権学習を行い年間を通じて様々な内容を学習しています。今年度は学習の振り返りプリントを持ち帰って、保護者の方のコメントをいただきました。子どもたちはお家の方に書いてもらったコメントに大いに励まされたことでしょう。これからも、子どもの心に響く取組を目指していきたいと思ひます。

生活面について

男の子・女の子に関係なく学級の友だちを大切にすること

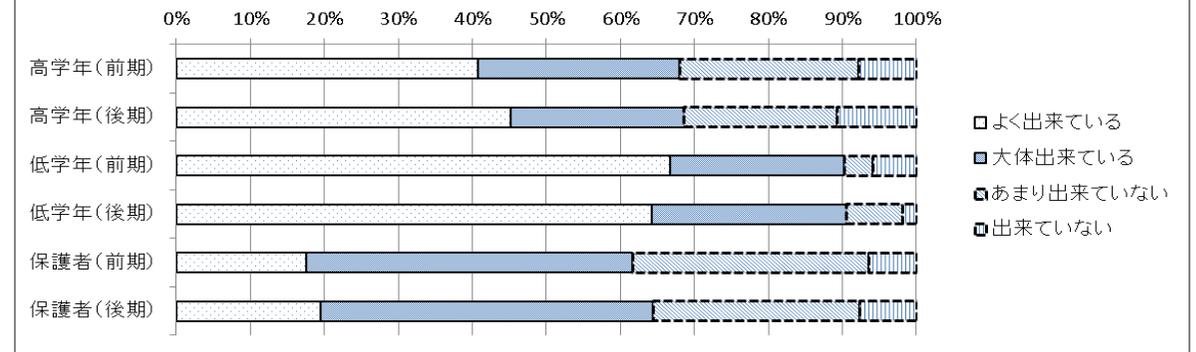


上のグラフは、学校生活の様子を表しています。「あまり出来ていない・出来ていない」と回答しているポイントが前期に比べると少なくなっています。友だちを大切にしようという意識が子どもたちにも保護者の方々にも高まってきたのだと考えられます。学校では、多くの子どもたちが学習をし生活をしています。けんかやトラブルが起こることもありますが、その解決の際にはお互いの気持ちや言葉できちんと表現することを大切に指導しています。将来、自分で善悪を判断し豊かな人間関係を築くことのできる人間に育ってほしいと願っています。

また、家庭でのお手伝いの項目でも、前期と比較すると少し頑張っている様子が伺えます。1年生では「ここに大作戦」という生活科の取組で、お手伝いをして家族にここにこなっても

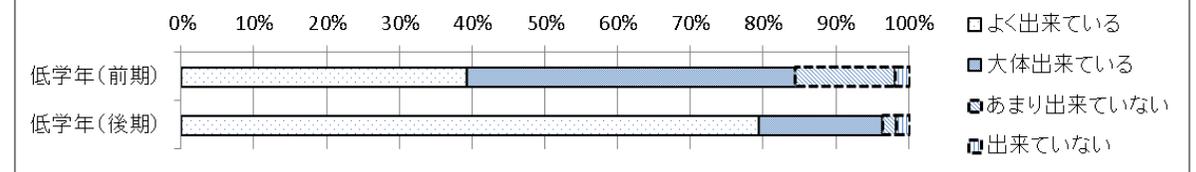
らいました。グラフを見ていると、子どもたちと保護者の思いにずれがあるように見えますが、保護者の方の「もっとやって欲しい!」という期待が大きいのかもかもしれません。本校の子どもたちは大変素直な面をもっていますので、『褒めて伸ばす』ことでまだまだ頑張れそうな様子です。

家での役わり(お手伝い)をすること



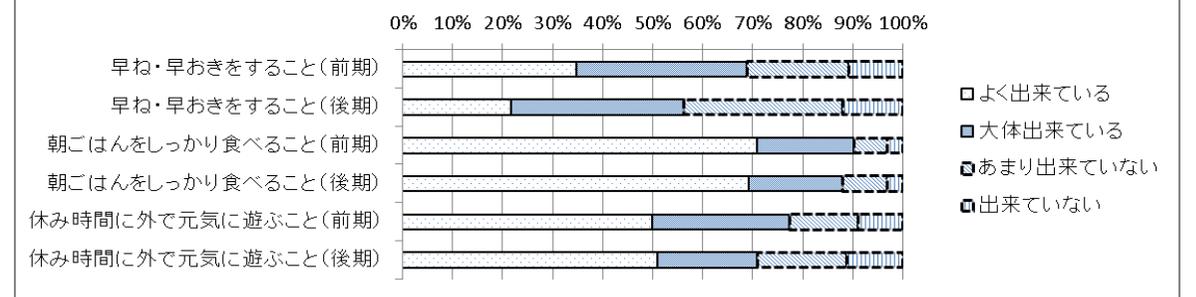
健康について

朝と夜に歯みがきをすること



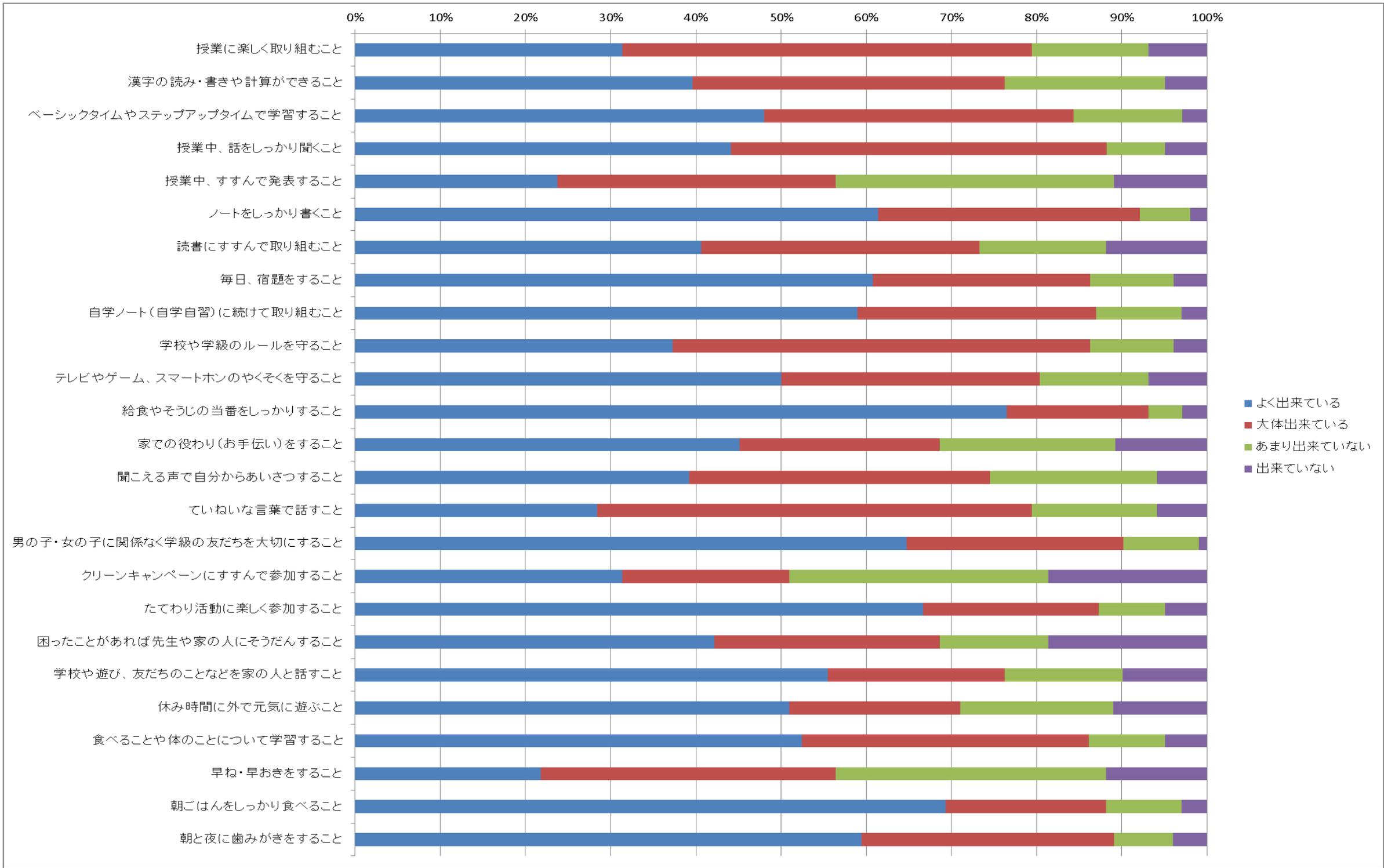
上のグラフは低学年の歯磨きに関する項目ですが、「あまり出来ていない・出来ていない」ポイントが大幅に減っています。1年生は学校での歯磨き指導が秋にありましたので、子どもたちの意識が高まったのだと思われます。歯磨きの定着で虫歯の罹患率を減らしていきたいと考えています。

高学年 実現度



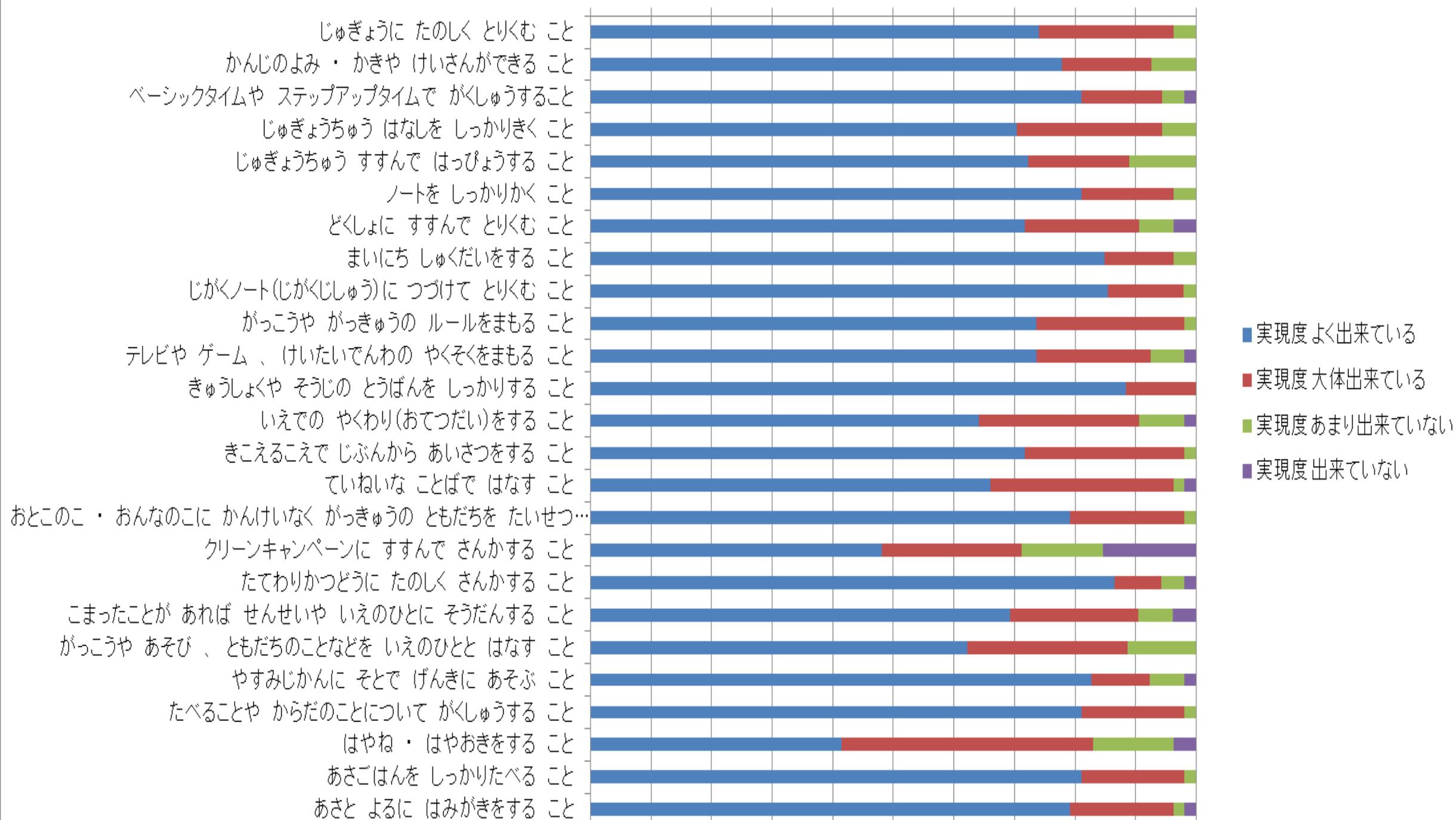
課題としては「早寝・早起き」の習慣を定着させることが必要です。後期、高学年の子どもたちの「あまり出来ていない・出来ていない」のポイントが大幅に増えています。早起きができないと、朝ごはんを食べる時間が無くなりますし、外で元気に遊ぶこともできなくなります。朝決まった時刻に起きて排便し朝食をとることで、生活リズムが整ってきます。学校では、今後も食や健康の学習を継続し、たくましい体・豊かな心・学習へ向かうやる気を育てていきたいと考えてい

平成29年度後期学校評価 高学年 実現度



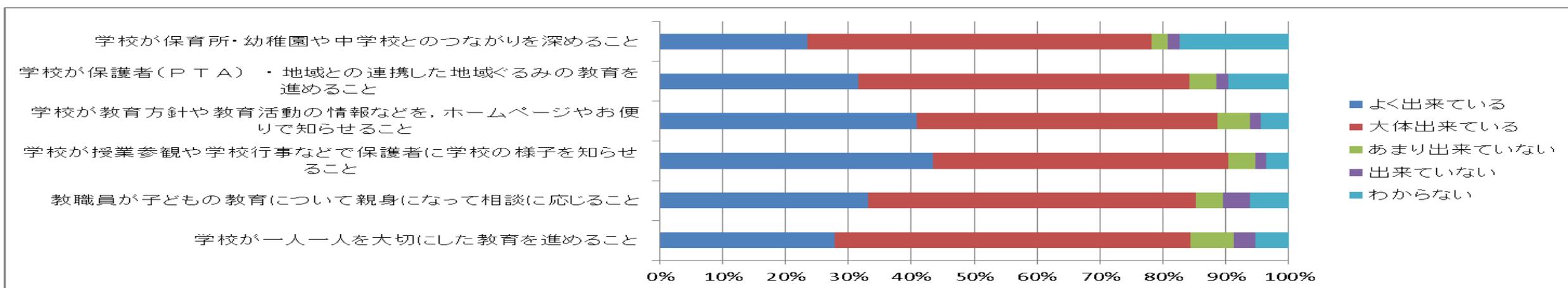
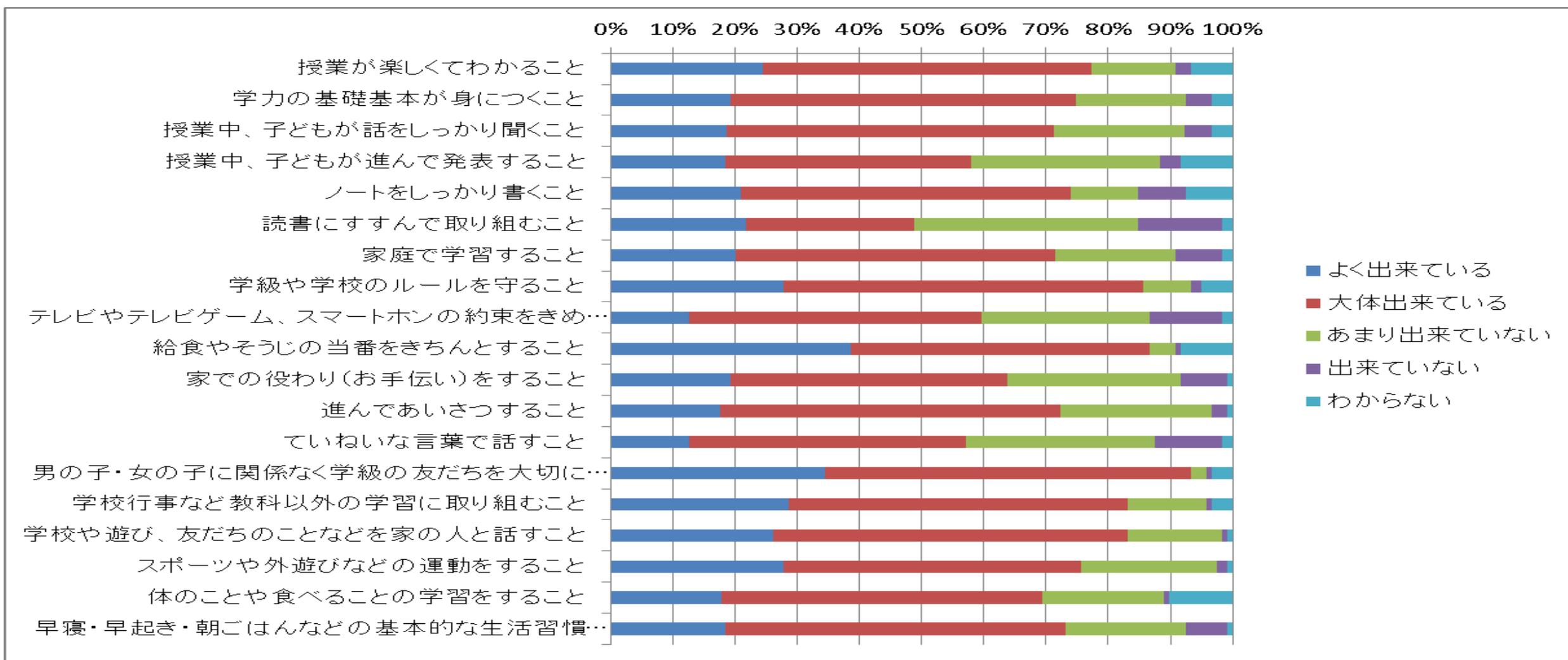
平成29年度後期学校評価 低学年 実現度

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



- 実現度よく出来ている
- 実現度大体出来ている
- 実現度あまり出来ていない
- 実現度出来ていない

平成29年度後期学校評価 保護者 実現度



平成29年度後期学校評価 教職員 実現度

